

韓国の幼稚園での「探求生活」の実践

北野幸子（神戸大学 人間発達環境学研究所）

韓国の幼稚園教育課程では 1992 年から領域「探求生活」が導入されています。関心と好奇心を持って自然現象や周囲の事物を探求する基礎的能力と態度を育てる「探求生活」では、科学的な探求能力、具体的な操作を通じた論理・数学的能力、創造的な問題解決能力の育成が行われています。

私たちの研究チームは平成 20 年 11 月に韓国釜山市を訪れ、先進的な科学教育を行っている幼稚園 6 園を視察し、探究生活の領域の実際や科学活動の事例についてインタビューしてきました。

釜山市の幼稚園では、週数回、特定のテーマを巡って科学活動が実施されていました。科学活動のテーマは散歩や好きな遊び、日常の子どもの発見やでき事、季節などを切り口にして展開されていました。たとえばある園では「収穫の秋」という実践を行っていました。そこでは、植物の育ちや実ったものの収穫を取り上げ、食品、種類、流通過程、成長過程、数え方（升、合、杓など）、実のなり方、調理方法へと発展させていました。

園環境や探求生活の実践活動の視察にあたり特に注目されたのは、コーナーの設定や改善の工夫が多いになされていたこと、「自由選択活動計画表」や実施状況についての記録が考慮されていたこと、プロジェクト型保育が導入されていたことです。



各園でドキュメンテーションが作成されています。子どもたちは、活動を振り、学びの過程を意識していました。



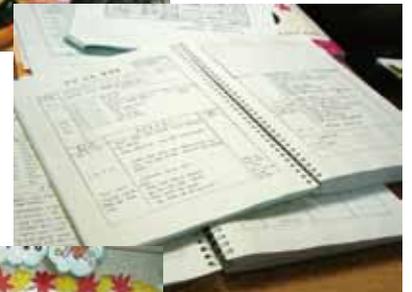
子どもの気づきが促される、工夫をこらした展示が、コーナーや壁面にディスプレイされていました。

研修も頻繁に行われていました。教え込みなど早期教育の過度な導入を注意しつつ、子どもの興味・好奇心・探究心にしっかりと応じて共に探究する保育の実現のために、1) 子どもに育つ「力」を具体的に挙げて保育者が意識すること、2) 保育者自身の科学的知識を増やすこと、3) 子どもの評価と実践評価を導入すること、といった工夫がなされていました。



◀さまざまな体験活動の中で子どもたちは学んでいます。

日々の詳細な計画のもとで、保育が行われています。



◀プロジェクトのコンセプトマップが作成されて掲示されています。